

# 自然観察NOW

No.1

野幌森林公園自然情報

発行：2015年4月23日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

## 春の花を見つけよう

北海道の永い冬が終わり、野幌の森にもようやく春がやってきました。木々はまだ芽吹き始めたばかりですが、落葉樹林の下（林床）には早くも花を咲かせている植物があります。これらの多くは、夏になって森が緑を深め、林床に届く光が不足するようになると、いつの間にか姿を消しています。

この短い命をけなげに生きる春の花たちは、スプリングエフェメラル（春のはかないもの、春の妖精とも）と呼ばれています。野幌の森の代表的なものとして、フクジュソウ、エゾエンゴサク、ヒメイチゲ、ニリンソウなどが挙げられます。スプリングエフェメラルには、早春に咲く、体に似合わない大きな花をつける、開花期間が長い、アリに種子を運んでもらう、地下茎を横に広げているなどといった特徴があります。それは、はかなげに見える花たちの、したたかな戦略なのです。詳しく知りたい方はボランティア・レンジャーの誰かに尋ねてみてください。

以下に代表的なスプリングエフェメラル3種を紹介します。

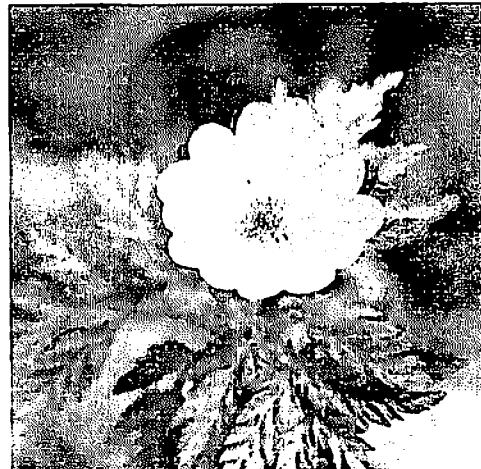
### フクジュソウ

アイヌの人たちはこの花をチライアパッポ（イトウ・花）と呼んで、イトウが川に上ってくる時期の目安としていました。

日光が好きなのですが、半ば日かけの場所を好みます。明るくなると開き、暗くなると閉じます。光が当たると、花弁の根元の内側の細胞が成長するので、押し分けられて花が開き、暗くなると外側が成長して閉じるという性質があります。この開閉によって、大切な雌しべや雄しべを花びらで抱え込み、寒さから守っているのです。

早春には、花粉を運ぶハナアブやハナバチなどの虫たちもなかなか来てはくれません。そこで、花たちは大きく美しく装い、工夫をこらして虫を勝います。フクジュソウはパラボナアンテナのように光沢のある花びらをひろげています。これは、花の中心、ちょうど雌しべや雄しべのあたりに光を反射して、暖めるためなのです。その結果、花の内部は外気温より10度ほど高くなります。冬越しを終えたハナアブたちにとっても、暖と食が同時に得られる天国のような花なのです。

フクジュソウの種子もエゾエンゴサク、エンレイソウの種子と同じく、アリが好む成分（エライオソーム）を持っていて、巣の近くまで運ばれ、そこで芽を出します。



## エゾエンゴサク

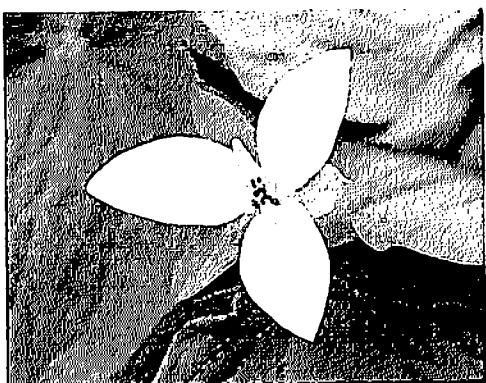
エゾエンゴサクは、地中に球形で小さな塊茎（かいけい）を持っています。アイヌの人たちはこの塊茎をトマと呼び、食糧にしていました。

花粉を運ぶのはハチ（マルハナバチ）ですが、ハチは気温が10℃以上にならないと活動しません。同じ株の花粉では種子がつくれない（自家不和合性）エゾエンゴサクにとっては大問題です。その解決法が開花期間です。まだ寒い4月に咲いた花の開花期間は20日以上もあります。ところが、5月初旬に咲いた花の開花期間は5日ほどしかありません。理由はわかりますね。

エゾエンゴサクの花色は濃～淡青紫色、紫紅色、白色などの変化が大きく、この花を観る楽しみの一つになっています。写真の上の花は白色、下の花は淡青色です。



## オオバナノエンレイソウ



属名を *Trillium* (triは3を意味する) といい、花図式をみると、内側から、雄しべ内3、外3、花びら3、萼3、葉3というように、すべて三つずつそろっています。

夏になると葉を枯らし、実を結びます。完熟した実は甘く、アイヌの人たちはエマウリと呼んでいました。

種子が落ちると、翌春は根が出るだけで終わります。翌々年になってはじめて発芽し、1枚の葉をつけます。成長はきわめて遅く、1枚葉の状態が数年続きます。さらに3枚葉の状態が数年、花が咲くまでには15年くらいかかるといわれています。

北海道にあるエンレイソウ属はオオバナノエンレイソウ、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウの三種を基本種としています。雑種ができやすく、オオバナとミヤマからシラオイエンレイソウが、エンレイソウとオオバナからトカチエンレイソウが、エンレイソウとミヤマからヒダカエンレイソウができることがわかっています。野幌の森にも、雑種の存在が確認されていますので、ぜひ、探してみてください。

(文責 北海道ボランティア・レンジャー 三輪礼二郎)

### 5月の観察会

5月10日（日）；春のありがとう観察会（10：00～14：30）

集合場所：自然ふれあい交流館

5月24日（日）；三角山登山観察会（10：00～14：30）

集合場所：緑花会館登山口